

## 懸念材料は多いものの世界の牛乳乳製品市場は概ね安定する見通し

### 欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2022年12月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会12月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(\*1)では、EUの近況として、①2022年1～9月の生乳生産量は前年同期比0.4%減少したこと、②庭先(牧場出荷)乳価は2021年1月以降上昇を続けていること、③乳製品価格は品目によって低下がみられるが依然として高水準にあること、④消費者マインドに回復の兆しもみられることなどを報告している。また、世界の近況として、主要乳製品輸出国・地域では、2022年1～9月の生乳生産は前年同期比0.9%減少したものの、9月のみでみると生乳生産は増加したことも指摘している。米国は酪農生産を緩やかに拡大させ、世界市場での存在感を増しつつある。さらに報告書は、天然ガスの入手可能性、エネルギー価格、投入コスト高(飼料、肥料)、環境上の制約、食品の高インフレに対する消費者の反応など、懸念材料は多いものの、世界市場の見通しは概ね安定しているようだとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第44回会合は、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家の参加を得て、ビデオ会議で2022年12月5日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ピア・カンペシーナの欧州組織)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)

注:ピア・カンペシーナとは、世界約70カ国の農民組合(小規模農家や農業労働者の組織)などのネットワークで、スペイン語で「農民の道」の意味。

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

#### EUの2022年1～9月の生乳生産量は前年同期比0.4%減

2022年1～9月のEUの牛の生乳集荷量は、昨年水準を下回った(-0.4%)。オース

トリア(+3.2%)、ポーランド(+2.1%)、ベルギー(+2%)、チェコ(+1.9%)など、9カ国の加盟国が生乳集荷量の増加を報告したが、主要生産国では、ドイツ(-0.9%)、フランス(-1.2%)、スペイン(-2.8%)、アイルランド(-0.3%)、イタリア(-0.2%)と減少が続いている。

EUのクリーム生産量は1%増加した。その他の乳製品は、全粉乳(-5.3%)、濃縮乳(-3.1%)、脱脂粉乳(-1.1%)、バター(-0.7%)、チーズ(-0.8%)、発酵乳(-0.3%)、飲用牛乳(-0.7%)と、生産量が減少した。

#### EUでは庭先乳価が2021年1月以降上昇を続けている

EUの平均庭先(牧場出荷)乳価は、2021年1月以降上昇を続けており、近年の水準を大きく上回っている(9月は1キロ当たり54.5ユーロセントで、5年間平均より+53%高かった)。2022年10月の加盟国の予測では、さらに1キロ当たり55.2ユーロセントまで上昇する

としている。すべての加盟国で生乳価格は前年を上回った。上昇率が高かったのは、ルーマニア(+64.1%)、オランダ(+61.2%)、ベルギー(+59%)であり、低かったのはキプロス(+12.5%)、マルタ(+5.5%)、フランス(+19.6%)だったことが報告された。

2022年9月には、集荷された生乳全体の4%が有機乳だった(加盟国のうち24か国からの報告による)。有機乳の価格プレミアムは、特にこの数ヶ月で著しく低下している(9月の価格差は1キロ当たり4.4ユーロセント)。2か国の加盟国(ラトビア、エストニア)では、有機乳の価格は一般の生乳よりも低かった。有機乳全体の約75%は、4か国の加盟国(ドイツ、フランス、デンマーク、オーストリア)で生産されている。

EUにおける酪農生産のための飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)の上昇は、過去5か月で軟化した。依然として高い水準にある(2020年に比べて約80%高い)。

### EUの乳製品価格は品目によって低下がみられるが、依然として高水準

EUの平均乳製品価格は、一部の製品にトレンドの変化が見られるものの、依然として高水準にある。EUの脱脂粉乳価格は過去4週間で8.3%下落し、現在は1年前より0.3%低い。バター価格は過去4ヶ月で7.3%低下し、現在は100キロ当たり636ユーロと、2022年3月中旬以来最も低い水準となっている。全粉乳価格は先月5.4%低下したが、2021年11月に比べていまだ13.2%高い。EUのホエイパウダー価格は2022年初めから15.5%低下し、現在は1年前より11.8%低い。チーズ価格は概ね高水準で安定している。EUは、バターと脱脂粉乳の価格競争力が、それぞれオセ

アニアと米国に比べて低くなっている。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づくEU在庫レベルの評価では、脱脂粉乳在庫の季節的減少が例年秋に比べて緩やかであることがわかった。国内消費量と輸出量の減少により、在庫量は約13万5000トンである。バター在庫は、2022年第1四半期には非常に少なかったものの、夏までは改善し、過去3ヶ月で約14万5000トンにまで減少した。9月まではチーズの在庫量はまだ少なかったが(約25万トン)、10月と11月に在庫は増加した。域内のチーズへの需要は依然好調であるが、価格の安いチーズへの一定の移行がみられている。

### 世界の主要輸出国・地域の生乳生産量が9月は増加

世界の主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド、アルゼンチン、ウルグアイ)の生乳集荷量は、2022年の最初の9か月間では全体で0.7%減少したが、9月には0.3%増加した。このようなトレンドの変化にもかかわらず、短期的にも中期的にも生産量の大きな増加は期待されていない。米国のみが成長状態を維持すると予想される。

### 米国は酪農生産を緩やかに拡大させ、世界市場で存在感を増す

世界的な牛乳乳製品への需要は依然として旺盛である。2022年第3四半期に貿易量は増加したが、2022年の総貿易量では、主に中国の輸入需要の減少により、20年ぶりに減少する見込みである。他の主要輸入国(特にメキシコ、東南アジア、MENA(中東・北アフリカ地域の国々))は、乳製品の輸入量を増加させた。EUの輸出は、弱い価格競争力が影響

し低迷を続けている。米国は緩やかな生産拡大の恩恵を受けており、世界市場で地歩を得つつある。2022年1～9月のEUの輸出先上位5か国は、英国、中国、インドネシア、米国、アルジェリアであった(シェア39%)。EUの英国向け乳製品輸出量は6%増加したが、それでもブレグジット前の水準には戻らなかった。

### EUの消費者マインドに回復の兆しも

小売業界では、消費意欲に若干の回復の兆しがあるものの、食品インフレは依然として乳製品需要に大きな影響を及ぼしている。ほぼすべての製品カテゴリー(特にバターとクリーム)で販売量が減少したが、価格上昇が理由で販売総額のみが上向いた。消費者は一律に、乳製品や有機製品の購入量を減らしたり、より安価な選択肢やブランドに移行していたりする。

EU委員会は、穀物と飼料作物の市場状況と見通しを説明した。在庫量と価格の点で、この6ヶ月で状況は改善された。トウモロコシは現在最も品薄の商品である。

### 懸念材料は多いものの、世界市場は概ね安定した見通しに

世界の牛乳乳製品市場の地合いは弱まったが、酪農生産の伸びは緩やかで、最近の価格下落傾向が需要を押し上げると予想されるため、見通しは概ね安定しているようだ。2022年第3四半期以降は生乳生産が回復しつつあり、生産者価格が幾分、弱含みで推移する可能性がある。乳処理加工用の天然ガスの入手可能性、エネルギー価格、投入コスト高(飼料、肥料)、環境上の制約、食品の高インフレに対する消費者の反応などが主な懸念材料であり、高価格が一般にみられるにもかかわらず生産者や乳業者の投資意欲が乏しいことも

懸念材料である。

### 参考資料:

- 1) [https://agriculture.ec.europa.eu/data-and-analysis/markets/overviews/market-observatories/milk/mmo-meeting-reports\\_en](https://agriculture.ec.europa.eu/data-and-analysis/markets/overviews/market-observatories/milk/mmo-meeting-reports_en) MMO economic board meeting report – 5 December 2022. European Commission.

(資料閲覧:2022年12月8日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新光一郎)